

## 築堤護岸工事 ～現地調査不十分の設計で覆土流出～

### 事例の概要

「多自然川づくり」の名のもとに、コンクリートブロックにて護岸工事を進め、最後に現地発生土を利用して覆土（ $t=20\text{cm}$ ）を施工しましたが、直後の出水により流出してしまいました。

災害復旧工事において多く使われる蛇籠工でも、同様の事例が多く見受けられます。

### 原因

設計時に現地調査が不十分でした。多自然型ならOKという風潮に流されず、担当者は入念に現地を確認し適切な工法をとる必要が

あるのに、現場状況を考慮した設計がなされていませんでした。

### 対応策と教訓

- ・低水護岸や水際部で護岸覆土を選定する場合は、水当たりや洪水流により、植生が定着する前に覆土が流出する可能性があるため、覆土が流出しないような対策を十分に検討する必要があります。
- ・通常のコンクリートブロックへの覆土は難しく、現在は種々の覆土タイプの二次製品があるので、製品を検討しましょう。

### 解説図

